

記 入 日 2013年1月15日

1. 概 要

実践団体名	志摩市立国府小学校		
連絡先	0599-47-3251		
プランタイトル	チーム KOU 防災プロジェクト		
プランの対象者※1	小学生・保護者・地域 住民	対象とする 災害種別※2	津波

※1 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント!】

小学校・幼稚園・児童館・自治会が合同で研修会や避難訓練等を行い、地域と連携した防災教育を実施することで「自助」「共助」意識の高揚と実践力の向上をめざします。また拠点学年の児童が地震津波対策についての地域学習を行い、学習したことを劇にして発表したり、防災カレンダーを作成し全戸(約450戸)に配布したりして、防災についての啓発を試みます。地域と交流しながら楽しく防災学習を進めます。

【プランの概要】

- ・講師を招いての防災研修会 学校職員、幼稚園職員、地域住民対象
- ・保護者啓発活動(子どもへのアンケート実施、PTA広報に結果を掲載)
- ・小学校、幼稚園、児童館、自治会合同避難訓練の実施。小学校で開催する防災学習(県教委防災担当者による講座、起震車体験等)への園児、保護者、住民の参加。
- ・拠点学年(第4学年)での「総合的な学習の時間」における防災学習 地震・津波防災について、見学、体験、聞き取り等の学習を実施し、その学習成果を劇や防災カレンダーとして他学年や地域の皆さんに発信する。

【期待される効果・ここがおすすめ!】

- ・地域の皆さんと一緒に活動する機会を作ったり、地域に発信したりすることにより、学校全体としての防災意識・実践力の向上を図ることができる。
- ・地域の皆さんと一緒に活動する機会を作ったり、地域に発信したりすることにより、学校を中心に地域全体の防災意識・実践力の向上を図ることができる。

2. プランの年間活動記録 (2012 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月			<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回避難訓練 (新入生も交えて避難経路、避難場所の確認) ・ 第 4 学年防災学習
5 月			<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA 防災アンケート実施 (児童対象) ・ 第 4 学年防災学習
6 月			<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 回避難訓練 (休憩時間中、自らの判断で行動する) ・ 第 4 学年防災学習
7 月			<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校職員・幼稚園職員・地域住民対象防災学習会 講師市防災担当者 ・ 野外体験活動時に非常食体験 (第 5・6 学年) ・ PTA 防災アンケート結果を広報に掲載 ・ 第 4 学年防災学習 東日本大震災直後に現地に派遣された市内消防士さんから学ぶ
8 月			
9 月			<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校・幼稚園・児童館・自治会合同避難訓練 ・ 小学校の防災学習 (県教委防災学習講座、起震車体験) に園児、地域住民が参加 ・ 1 年後の石巻を訪ねて (スポーツ少年団長体験談 第 6 学年、地域住民対象) ・ 1 年後の石巻写真展 ・ 防災啓発グッズ配布 ・ 第 4 学年防災学習
10 月			第 3 回避難訓練 (下校時、避難場所・経路確認) 第 4 学年防災学習
11 月			第 4 学年防災学習
12 月			第 4 学年防災学習 (劇の発表)
1 月			第 4 学年防災学習 (リーフレット、カレンダー作成)
2 月			第 4 学年防災学習 (カレンダー作成、劇の発表)
3 月			第 4 学年防災学習 (カレンダー配布、劇の発表)

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3

タイトル	防災学習会
実施月日（曜日）	7月20日（金）
実施場所	国府公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：黒田十三郎 所属・役職等：志摩市地域防災室 防災技術指導員
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間30分
プログラムのカテゴリ、形式※4	講演会
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	地域と関連して知識を身につけ防災意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	プレゼンテーション資料を活用しての講演
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	市地域防災室2名 パソコン、プロジェクター、スクリーン
参加人数	30名
経費の総額・内訳概要	3,598円（お茶代）
成果と課題	【成果】 国府地区に関する課題等にもふれていただくことができ、有意義であった。 【課題】 参加者数の増加
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	PTA 防災アンケート
実施月日（曜日）	
実施場所	
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名： 所属・役職等：PTA 広報部員（保護者・職員）
所要時間または「コマ数×単位時間」	20分（アンケート時間）
プログラムのカテゴリ、形式※4	その他 意識調査とその活用
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	アンケート結果をもとに家庭で話し合い防災意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	アンケート制作 アンケート実施 アンケート結果集計 アンケート分析 アンケート結果広報掲載
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	
参加人数	82名（全児童）
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 学校の取り組む防災学習にPTAが参画した。 【課題】 家庭と連携して「家庭防災会議」等の防災学習を進めていく。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	合同避難訓練
実施月日（曜日）	9月28日（金）
実施場所	国府地区避難場所
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 教頭 氏 名： 所属・役職等：小学校教頭、幼稚園園長、児童館館長、自治会長
所要時間または「コマ数×単位時間」	30分程度
プログラムのカテゴリ、形式※4	避難・防災訓練
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	小学校、幼稚園、児童館、自治会が連携して避難訓練に取り組む
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・4者合同打ち合わせ会 ・保護者への案内配布 ・地域住民への回覧板、放送によるお知らせ ・市防災からのサイレンの合図で避難開始 ・避難場所で自治会担当者が参加者を把握、報告
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた資料での事前指導 ・ライフジャケット着用練習 ・小学校・幼稚園・児童館はヘルメット、ライフジャケット着用
参加人数	児童館園児5名幼稚園児20名小学生80名・職員23名 地域住民多数
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフジャケット、ヘルメット着用による意識の向上 ・ライフジャケット、ヘルメットの着用は住民への意識向上のための啓発にもなったと考えている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、幼稚園、児童館の職員、自治会の役員が交代していくので、連携を確実にしていく。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 4 】※3

タイトル	防災学習会
実施月日（曜日）	9月28日（金）
実施場所	国府小学校図書室、運動場
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名： 所属・役職等：県教委学校防災技術指導員 2名 起震車職員 2名
所要時間または「コマ数×単位時間」	45分×3コマ
プログラムのカテゴリ、形式※4	出前授業・体験学習
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	地域住民、保護者、園児、児童と一緒に活動する場面を作り出す
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園・児童館」「小学校低学年」「小学校高学年」の3グループについて時間差で3コマを開設する。 ・3グループで「講座」「起震車体験」「液状化実験」をローテーションする。 ・保護者、地域住民はいずれにでも参加できる。 ・保護者、地域住民への防災啓発グッズ（パンフレット、非常食）等の配布
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・起震車 ・県教委出前講座 ・市防災より提供してもらった防災啓発資料（パンフレット、笛）非常食
参加人数	児童館園児5名幼稚園児20名小学生80名・職員23名 地域住民・保護者 約100名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児、児童、職員、保護者、地域住民の意識向上が図られた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンネリ化を防ぐ工夫
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 5 】※3

タイトル	一年後の石巻を訪ねて
実施月日（曜日）	9月28日（金）
実施場所	国府小学校第6学年教室、玄関及び中央階段
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：濱村隆哉 所属・役職等：国府スポーツ少年団団長（市社会福祉協議会職員）
所要時間または「コマ数×単位時間」	45分×1コマ
プログラムのカテゴリ、形式※4	学級活動・イベント
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	震災後1年の石巻を訪ねて感じたことを語ってもらい津波に対する意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・講師先生との打ち合わせ ・講師が震災1年後の石巻を訪れて地元のスポーツ少年団の方と交流したことも含め、石巻の様子と想いを話していただく。 ・玄関、中央階段に講師の撮影した写真を20点展示する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・写真パネル（発泡スチロール、A3写真）
参加人数	児童18名、地域住民約20名
経費の総額・内訳概要	26,700円 （講師謝礼品3,000円 写真パネル製作費23,700円）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方も参加してくれて熱心に聞いていた。 ・写真には国府白浜海岸とそっくりの海岸風景の写真があり、他人事と思えなかった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災から学ぶことの継続
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 6】※3

タイトル	拠点学年防災学習
実施月日（曜日）	通年
実施場所	教室、地域等
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 担当者 氏 名：中村麻衣子 所属・役職等：国府小学校第4学年担任
所要時間または「コマ数×単位時間」	45分×週2コマ
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	津波から命を守る知識を身につけ意識を高めると同時に、校内外に発信する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・防災学習の目的、計画の立案 ・計画に沿った学習、地域調べ ・劇作りと練習、発表 ・防災カレンダーの計画と制作、配布
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・震災直後現地に派遣された市内消防職員の方たち ・市防災職員 ・自治会長ほか地域の方たち
参加人数	14名（第4学年児童数）
経費の総額・内訳概要	約8万円（リーフレット・カレンダー制作、劇用品購入、資料館見学バス代） 劇用品3,545円（12月時点）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを劇化して発表したり、防災カレンダーに作ったりすることができた。 ・子どもたちは地域の方たちとふれあいながら学習し、津波防災の意識を高めることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の企画、指導力
成果物	リーフレット 防災カレンダー

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

- ※4 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。(複数選択可)
- ※5 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の防災学習は教頭が中心となって計画・立案している。県教委、市防災との連絡調整を早めに確実にする。また、各学年の指導は担任が行うので連携が大切である。 ・拠点学年の防災学習では「総合的な学習の時間」として、何をどのように学ばせるのか（気付かせるのか）担任が校長と連携しながら計画していった。 ・年間を通してのプランなので、「何をどの時期に行うのか」学校行事、幼稚園行事、自治会行事などとの関係で無理のない日程を調節していくことが大切である。 ・保護者の方、地域の方に気軽に参加していただけるプランを工夫しなければならない。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、幼稚園、児童館、自治会での合同避難訓練の計画・実施においては、小学校が中心になって計画・立案している。校長、教頭、園長、館長、自治会長が打ち合わせをしているが、メンバーも変わっていくので丁寧な計画が必要である。4者に都合のよい時間設定、保護者・住民への周知方法、当日の合図など詳細に打ち合わせる必要がある。次年度からは「連携会議」として立ち上げて、消防団の参加など拡大することを考えていきたい。 ・地域住民に学校の防災学習に参加していただきやすくするために、昨年より、市防災室に啓発グッズ、非常食の配布について協力・支援をいただいている。今年は2年目で昨年と異なったものをと考えたが、同様のものになった。 ・石巻の写真を展示したが、印刷・展示には経費がかかるので、手作りの写真パネルとした。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 広報部による児童アンケートでは、防災学習の実施状況を踏まえて、アンケート内容を作成しなければならなかった。 ・防災学習では保護者、地域の方は、合同避難訓練からの続きとして学校へ来ていただいた。起震車体験、防災講座への参加など案内をしたり、順番を調整したりするのが大変だった。 ・拠点学年の防災学習では成果のまとめが3学期となる。劇については、児童集会での発表に合わせて2学期末に準備できたが、成果物のリーフレット、防災カレンダーをチャレンジプランの報告会までに間に合わせるのは苦しかった。 ・拠点学年での資料館見学など当初予定にはないものを効果的と考えて実施したが、経費の面では苦しかった。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	国府幼稚園 国府児童館	合同避難訓練実施 小学校防災学習参加
保護者・ PTAの組織	国府小学校 PTA	小学校防災学習参加 児童アンケート実施
地域組織	国府自治会 国府老友会	防災学習会参加 合同避難訓練実施 小学校防災学習参加
国・地方公共団体・ 公共施設	志摩市役所 三重県教育委員会	合同避難訓練防災無線 放送 啓発グッズ、非常食提供 起震車派遣 出前講座
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では防災学習、避難訓練を繰り返してきているが、子どもたちは、真剣な態度で学習・訓練ができており、「地震・津波から自分の命を守る」意識は高まっているととらえている。 ・合同避難訓練、防災学習への保護者・地域住民の参加は2年目となり、小学校が中心となって地域全体を巻き込んだ形で防災学習・避難訓練を継続して行うことが定着してきている。 ・合同避難訓練も防災学習も保護者・地域住民に参加していただくことにより、子どもたちの防災学習に対する姿勢を見ていただく機会となり子どもたちの緊張感も増し、意識が高まるととらえている。また、保護者・地域住民の方も子どもたちの真剣な姿から触発される部分もあるととらえている。 ・PTAが児童アンケートを実施し、広報で啓発することができた。 ・チャレンジプランとして実施することで国府小学校として防災教育のスタイルが確立されつつあると考えている。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・合同での避難訓練、小学校の防災学習に保護者・地域住民に参加していただく地域ぐるみの防災学習の取り組みは2年目であったが、参加者数も増加し、小学校児童、保護者、地域住民の意識向上・実践力の向上に寄与しているととらえている。 ・拠点学年での防災学習の実施も2年目となった。子どもたちが興味・関心をもったことや、地域での追求を可能にする指導者の企画力で楽しい学習が展開された。「総合的な学習の時間」に実施するので、子どもたちの関心、意欲がないと深まりがないものになってしまう。担任の企画力・指導力も重要であるが、管理職を中心として関係職員が支援する体制を確立しておかなければならない。 ・年間を通して学校の教育活動の中で実施しているので、内容、実施時期など他の教育活動、年間の行事日程などとの無理のない計画が大切である。同時に、防災教育は本校では必要不可欠であり教育活動の一つの柱として位置づけ、他の行事等を精選していくことも検討しなければならない。 ・日程、関係機関及び地域との連携についても継続性を考えて無理なくしかも効果的な連携、例えば避難場所の整備作業の時期、防災備品の備蓄などをさらに考えていく方向で進めたい。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジプランとして実施した活動内容は本校にとって必要な日常の教育活動であると考えている。「地震・津波を想定した年間4度の避難訓練とその機会に実施する各学年での防災学習」「小学校、幼稚園、児童館、自治会での合同避難訓練と小学校が中心となった地域ぐるみの防災学習」「PTAと連携しての防災学習」「拠点学年での防災学習と校内外への発信」を継続していきたい。継続していくと同時に新たに「ライフジャケットを着用しての水泳訓練」「学校近くの避難場所に建設される避難所での宿泊体験」等、他の行事との調整を考えながら、地域・保護者と連携しながら実施していきたい。

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。



市から配布されたヘルメット、ライフジャケットが、教室廊下においてあります。ヘルメットは自分の椅子の下側にゴムで保管する予定です。



9月の防災学習で地元スポーツ少年団長の浜村さんにお話をいただいた時のことが新聞記事になりました。「1センチでも高い所に逃げて」は、話を一緒に聞いていただいた地域の方の心にも届いていたようです。



上記の浜村さんが撮影してきた石巻の写真パネルにして展示しました。国府の白浜とそっくりな海岸風景の写真もあり、他人ごとではないという思いを強く持つことができました。

(自由記述: 1/3)



拠点学年の4年生の学習の様子。地域の地図で避難場所までの避難経路を確かめています。彼らは海岸から、避難経路を通過して避難場所まで何分で行けるかも体験的に調べました。



子どもたちが調べた避難場所、避難経路を示した地図。避難場所の写真を貼り、気付いたことや注意することを記入してあります。

教室前に廊下に掲示されました。



劇を作る時のアイデアを出し合った授業時の板書の一部です。各班でアイデアを出し合い、一つの劇に作り上げていったことがわかります。

(自由記述: 2/3)



数年前に始めた、非常時の着替えの保管。子どもたちが避難する場所にある自治会の防災倉庫に置かせていただいています。保護者の方に夏用、冬用をそれぞれビニル袋に入れて記名してもらい、春と秋に入れ替えをします。

子どもたちの避難する場所にある自治会の防災倉庫におかれた子どもたちの着替え。各学年で段ボール箱に入れてあります。今年から、一人1本500ミリペットボトルの水もおきました。

本年度、児童用防災マニュアルを編集しなおしました。昨年度4年生が作成した地図等も使い、地域の地名も入れて、家庭でも使用していただきやすいようにコンパクトにしました。

海岸近くにあり、南海トラフ地震が想定される本校の立地条件を考えると地震・津波防災教育は最も重視される教育課題でもあります。継続を大切にしながら、マンネリ化することなくしかも肥大化することなく効果的な防災教育を求めていきたいと思えます。本年度チャレンジプラン参加によって触れさせていただいたような様々な人の思い、防災への熱い思いに指導者が学び、触発されていくことが大切だと実感しました。また、一般的な防災に関する情報にアンテナを高くするとともに、地域の状況を常に把握していくことも必要です。学校としては毎年新しく転入する職員の新鮮な視点、感覚から謙虚に学ぶ気持ちを大切にしていきたいとも考えております。

(自由記述: 3/3)